

令和5年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～					
	施策	27 公共交通 ー安全で便利な公共交通ネットワークづくりを進めますー					
重点プロジェクト							
主管課	都市政策部 都市計画課	評価責任者				山風呂 敏	
		評価日				令和6年6月1日	
関連課	障がい福祉課、高齢福祉課、子育て支援課						
目標	より安全で便利な公共交通機関となるよう改善を進めるとともに、利用しやすい公共交通ネットワークの整備を進めます。						
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 民間の公共交通機関との連携 ○東武鉄道や民間路線バス事業者に対し「東武東上線改善対策協議会」や「ふじみ野市地域公共交通活性化協議会」などを通じて、利便性の向上、駅・踏切施設の改善、バス停留所の安全対策などの要望を行います。</p> <p>(2) 交通結節点の機能強化 ○市内公共交通の利便性をより高めるため、上福岡駅東口の駅前整備を進めます。</p> <p>(3) 市内循環ワゴンの充実 ○より便利で持続可能な市内循環ワゴンを目指し、市民のニーズを把握した上で、必要に応じ運行ルートやダイヤの見直しなどを行います。</p>						

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策目標	指標 1	指標名	市内循環ワゴン乗客数					
		説明	令和5年4月から新規コースを含めた全5コースによる運行が開始され、ピークであった令和元年度の乗客数を上回り令和4年度からは乗客数が22,873人増加した。					
		単位	人					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	41,579	42,956	44,333	45,710	47,088	48,465
		実績値	86,101	92,775	66,072	72,032	86,881	109,754
	指標 2	指標名	市内循環ワゴン利用者の満足度					
		説明	令和5年4月から開始されたコース・ダイヤの見直しの効果を検証するためにアンケート調査を実施し、利用者の満足度についての調査を行い、88.3%の満足度を得た。					
		単位	%					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
		実績値	-	-	-	-	-	88.30
	指標 3	指標名						
		説明						
		単位						
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標 4	指標名						
		説明						
単位								
成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標 5	指標名							
	説明							
	単位							
成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	48,368	49,524	57,624	57,589	62,469	72,056
	人件費	9,716	9,574	13,698	18,281	18,320	20,600
収入	特定財源	0	0	0	0	0	0
	一般財源	58,084	59,098	71,322	75,870	80,789	92,656

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	市内循環ワゴンの運行コース・ダイヤの見直しに係る新運行計画の実施	学識経験者、交通管理者、道路管理者、関係する公共交通事業者、市民代表者等で構成されているふじみ野市地域公共交通活性化協議会において策定した新しい運行計画に基づき、令和5年4月から運行を開始した。	令和4年度に策定した運行計画に基づき、令和5年4月より新しいコース・ダイヤによる運行をスタートさせたことにより、市内東西連絡性の向上及び移動目的地への選択肢が増加し、乗客数が令和元年度のピーク時を上回った。	交通政策推進事業
取組②	コース・ダイヤ見直し後のアンケート調査の実施	令和5年4月から開始されたコース・ダイヤの見直しの効果を検証するためにアンケート調査を実施した。	アンケート調査の結果、利用者の満足度については88.3%であることを確認できた。また、アンケート調査の実施により市内循環ワゴンにおける短期的課題、継続的課題を抽出した。	交通政策推進事業
取組③				
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	市内循環ワゴンの乗客数については、令和5年4月から新規コースを含めた全5コースによる運行をスタートしたことやバスロケーションシステム及び交通系ICカード等のキャッシュレス決済導入の効果もあり、乗客数がピークであった令和元年度の実績を上回ることができた。 また、コース・ダイヤの見直しの効果を検証するため利用者に対してアンケート調査を実施し、利用者の満足度調査と併せて短期的課題、継続的課題を抽出することができた。 利用者の満足度については、目標値に達していないことからアンケート調査により抽出した課題を分析し、課題解決に向けた取組を検証、実施していくことで利用者の満足度を上昇させ、更なる乗客数の確保に努めていく。
おおむね順調	
行政資源の活用	
おおむね適切	
取組の有効性	
有効	
施策の効果	
効果が得られている	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		交通政策推進事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	07 都市整備 ～快適で便利なまち～			
	施策	27 公共交通 ー安全で便利な公共交通ネットワークづくりを進めますー			
予算費目		一般会計 08土木費 01土木管理費 02交通安全対策費			
所管部課		都市政策部 都市計画課		評価責任者	田中 崇允
事務事業期間		昭和62年度～		評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		地域公共交通の活性化及び再生に関する法律、道路運送法、東武東上線改善対策協議会規約			
事務事業の内容	事務事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・民間路線バスと相互に補完する役割で市内循環ワゴン「ふじみん号」を運行し、本市における持続可能な公共交通ネットワークの維持・存続に寄与すること。 ・東武東上線の輸送力の増強及び鉄道施設の整備・改善を促進すること。 			
	事務事業の経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・旧大井町で平成14年度から循環バスの運行を開始し、平成28年度に路線とダイヤを見直し、バスをワゴンタイプへ変更する実証運行を実施し、平成29年度に本格運行を開始した。 ・昭和62年に沿線市町村で発足した東武東上線改善対策協議会を通じて、東武鉄道株式会社に対して毎年度要望活動を行っている。 			
	事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市内循環ワゴンのコース、ダイヤ、料金の設定などについては、道路運送法及び地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく会議体であるふじみ野市地域公共交通活性化協議会が掌握しており、市からの負担金を活用し、市内循環ワゴンの運営を行っている。なお、この協議会は、学識経験者、交通管理者、道路管理者、関係する公共交通事業者、市民代表等で構成されている。 ・東武東上線改善対策協議会を通じて、東武東上線の鉄道施設の改善について、毎年要望活動を行っている。なお、東武東上線改善対策協議会は、和光市、朝霞市、新座市、志木市、富士見市、三芳町、川越市、ふじみ野市で構成されている。 			
	令和5年度の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年4月から開始されたコース・ダイヤ見直し後の運行において、新規コースとなるEコースを含めた全コースにおいて、安全・安心な運行を確実に実施した。 ・令和5年4月から実施しているコース・ダイヤの見直しの効果や短期及び継続的課題について検証するために、利用者アンケート調査を実施した。 ・東武東上線改善対策協議会については、志木駅より北側の複々線化、ホームドアの早期設置等をはじめとした要望活動に係る取組を実施した。 			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	2.30	2.60	2.60
		人件費	18,320	20,600	20,600
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		18,320	20,600	20,600	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	9	10	16	
	委託料	11,492	0	0	
	使用料及び賃借料	12	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	50,954	72,043	76,339	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費※	1	3	5	
支出合計		80,788	92,656	96,960	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		80,788	92,656	96,960	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		708	812	826	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	市内循環ワゴンの乗客数		
	説明	より便利で持続可能な公共交通を構築するために設定する。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	48,465	48,465	48,465
	実績値	86,881	109,754	
指標 2	指標名	利用者の満足度		
	説明	市民ニーズを反映した交通ネットワークを構築するために設定する。 なお、令和5年度から新たなコース・ダイヤでの運行開始が決定していたことやコース・ダイヤ見直し後のアンケートによる満足度調査の実施が決まっていたことから、令和4年度については利用者の満足度を確認していない。		
成果	単位	%		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	99.80	100.00	100.00
	実績値	0.00	88.30	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>●新運行計画による市内循環ワゴンの運行 新規コースであるEコースは、一定の効果を表している。また、既存のコースには、一部、Eコースと重複する路線もあるが、既存コース（A、B、C、Dコース）全てにおいて、市内循環ワゴン乗客数が前年度比で増加した。また、バスロケーションシステムや交通系ICカードによるキャッシュレス決済システムの導入により、利用者の利便性向上を図ることができた。</p> <p>●利用者満足度の結果 コース・ダイヤの見直しにおいて、より効果的に、そして持続可能な公共交通ネットワークを構築したものの、令和5年度市内循環ワゴン利用者アンケート調査において、「便利である」、「利用しやすい」、「駅や公共施設に行きやすくなった」という意見がある反面、「便数を増やして欲しい」、「時刻表や路線図が分かりづらい」という意見があることから満足度は100%には至らなかった。しかしながら、「利用者の満足度」については8割を超える利用者から「良い」という回答を得られたことから、市内循環ワゴン利用者満足度について、高い評価を得られたと考える。</p> <p>●東武東上線改善対策協議会における要望活動 令和5年11月に首長による対面での要望活動を実施することができた。</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>●市内循環ワゴンの運行について、令和6年度以降の運行においても、安全・安心に運行を実施していく。</p> <p>●コース・ダイヤの見直しの効果や短期及び継続的課題について検証するために実施した利用者アンケートの調査結果を分析し、利用者の方々に満足して頂けるよう更なる改善に努める。</p>
中長期的方向性	<p>●東武東上線への要望活動に関する取組については、輸送力の増強及び鉄道施設の整備、改善を促進するために粘り強く要望を続けていく。</p>
継続	<p>以上により、持続可能な交通ネットワーク維持・存続に努めていく。</p>